

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教職実践力高度化コース/
阪根 健二

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

将来、教師を目指す学生(及びリーダーを目指す現職)に対しては、以下のような観点で授業実践を展開する。

①授業内容については、「教職論」では、初年次教育の重要性を鑑み、教師として使命感を醸成することを一義とした。「学校の危機管理」においては、厳しい学校現場の実情を認識させ、判断力と教師としてのスキルを習得させる。なお、「教職大学院の授業」では、今後リーダーとして対応できる教育実践力の高度化を目指す。

②授業方法については、「教職論」では、東かがわ市との協定を生かし、実際の現場を体感させ、教師になるという意義を体得させる。「学校の危機管理」では、いじめなどの生徒指導の問題を含め、徳島県の大学だけに、「防災に強い」教員づくりを目指す。そのため、徳島県南部地区の防災実習を引き続き実施する。「教職大学院の授業」においても、現場に近いスタンスで授業実践を行う。

③成績評価については、いずれも実習などの実践が基本となるが、学部生には毎時間、授業開始時点で必ず「小テスト」を実施し、厳格な評価を目指したい。打たれ強い教員づくりが今後の重要な視点であるが、それにはきめ細やかさが必要となる。

2. 点検・評価

①授業内容について、「教職論」では、初年次教育の重要性を鑑み、教師として使命感を醸成するため、授業実践の工夫を行った。特に、体罰・いじめ問題を取り入れた。また、「学校の危機管理」においては、厳しい学校現場の実情を認識させ、判断力と教師としてのスキルを習得させるため、現場中心の授業内容を採用した。なお、「教職大学院の授業」では、今後リーダーとして対応できる教育実践力の高度化を目指しており、系統的な授業実践を行った。

②授業方法について、「教職論」では、東かがわ市との協定を生かし、実際の現場を体感させるため、5回にわたり、東かがわ市立白鳥小学校の土曜授業に参画させた。また、「学校の危機管理」では、報道関係者(徳島新聞社編集局部長)及び地域連携センター客員研究員(退職校長)をゲストとして招聘し、より実態に近い授業を工夫した。12月には、徳島県南部地区の防災実習を実施するため、県と協議し、約70名の参加を得た。なお、「教職大学院の授業」においても、現場に近いスタンスで授業実践を行った。

③成績評価について、いずれも実習などの実践が基本としたが、学部生には毎時間、授業開始時点で必ず「小テスト」を実施した。授業評価では、いずれも高い評価を得たが、特に教職大学院授業である「学校防災教育の開発(受講生32名)」では、どの項目でも、4.7~4.8という高い評価であった。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ・学生が主体的に授業に参加できるような授業を工夫改善する。(毎時間、出席票を活用し、小テストなどの評価を行う。)
- ・学生にとって、“教職の意義”について理解を深められるよう、授業等の機会を通じて、現場の現状などを紹介し、教職指導を進めていく。
- ・学生の進路、悩み等の相談に随時応じるとともに、将来社会人としての資質を養えるよう対応する。
- ・東かがわ市との連携を活用し、多くの学生をボランティア参加をさせるとともに、徳島県防災センターとの共同開催事業(防災実習)にも学生・院生の参加を促す。

2. 点検・評価

- ・学生が主体的に授業に参加できるように、授業内容等を工夫改善した。(毎時間、出席票を活用し、小テストなどの評価を行った。)
- ・学生にとって、“教職の意義”について理解を深められるよう、実習を多く取り入れた。特に、東かがわ市との連携を活用し、多くの学生をボランティア参加をさせるとともに、徳島県との共同開催事業(防災実習)に、学生・院生の参加を促した。なお、東かがわ市との連携事業(土曜授業)は、年間10回におよび、のべ300名の学生の参加を得た。また、徳島県による「学生災害予防ボランティア隊(南部県民局)」への登録において、約50名の登録を得た。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ・平成24年度に引き続き、おもちゃ王国からの外部資金を獲得する。
- ・科学研究費補助金(いじめ研究)の研究の充実を図る。また、防災研究を継続する。
- ・人材GP終了後の教育支援人材認証講座等の運営及びそれに係る実践研究を行う。
- ・学会関連の研究の充実を目指す。特に、日本生徒指導学会、日本NIE学会の役員として、責務を果たす。

2. 点検・評価

- ・平成24年度に引き続き、おもちゃ王国(民間)からの外部資金を獲得した。(50万円)
- ・科学研究費補助金(いじめ研究)の研究(2年目)の充実を図った。
- ・人材GP終了後の教育支援人材認証講座等の運営及びそれに係る実践研究を継続しており、6月及び9月にパートナー講座を実施した。今年度は、阿波市でのサテライト講座を実施した。
- ・日本生徒指導学会及び日本NIE学会の常任理事として、学会運営にあたった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・地域連携センター兼務職員として、学校、教育委員会及び近隣大学を含めた地域連携の職務を果たす。また、地域連携委員会などで、副委員長として、委員会運営にあたる。
- ・教職実践力高度化コースのコース長として、その責務を果たす。
- ・本学の定員充足のため、県教委関連の審議会など(徳島県社会教育委員長など)の依頼を積極的に受け入れ、これによって大学広報や派遣確保などに寄与する。
- ・教職論などの授業での現地実習などを通して、教員採用への支援を行い、引き続き教員就職率日本一を目指す。
- ・四国大学間連携による危機管理教育において協力関係を維持し、本学の防災等の危機管理分野などで大学運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ・地域連携センター兼務職員として、学校、教育委員会及び近隣大学を含めた連携活動を充実させた。また、地域連携委員会などで、副委員長として、委員会運営にあたった。
- ・教職実践力高度化コースのコース長として、その責務を果たした。
- ・本学の定員充足のため、県教委関連の審議会など(徳島県社会教育委員長など)の依頼を積極的に受け入れ、大学広報や派遣確保などに寄与するための活動を行った。
- ・教職論などの授業での現地実習などを通して、教員採用への支援を行った。(例年、新入生合宿の講演を実施おり、入口教育を重視した。)
- ・四国大学間連携による危機管理教育において協力関係を維持し、本学の防災等の危機管理分野などで大学運営に貢献した。また、徳島大学(非常勤講師)で防災に関する講義活動を実施した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属学校のみならず、近隣学校と連携して、各学校の課題についての解決を図るための支援を行う。
- ・民間企業、マスコミとの連携を図り、本学の活動について、広報等に寄与する。
- ・とくしま地震防災県民会議会員として、地域防災に尽力したい。
- ・各審議会や委員会活動を積極的に受け入れる。特に、学園都市構想における鳴門市との連携に力を入れる。

2. 点検・評価

- ・附属学校のみならず、近隣学校と連携して、各学校の課題についての解決を図るための支援を行った。教育支援講師を積極的に受け入れ、10件を実施した。
- ・本学の活動について、広報等に寄与するため、メディアとの良好な関係を維持している。特に、毎日新聞のコラムは、連載が継続中である。(4月5日現在で、286号「うずしおの地から」)
- ・とくしま地震防災県民会議会員として、地域防災に尽力しており、自主防災団関係の講演活動も行っている。また、海上自衛隊松茂教育隊との連携も図っている。
- ・各審議会や委員会活動を積極的に受け入れており、特に、学園都市構想における鳴門市との連携に力を入れるため、積極的に鳴門市の行事に参画した。特に、3月には鳴門市文化会館で実施した「被災地を思い、被災地に学ぶフォーラム」(本学後援)の協力し、1,000名を超える参加者を得た。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度は、防災関係の諸行事が多かったが、学長の命を受け、四国5大学連携防災・減災教育研究協議会(仮称)の設立に尽力している。